

「みんなで考え、ともにつくり、 育てる とっとり市庁舎」



庁舎東側からの外観イメージ

新本庁舎の基本設計は、平成 27 年 7 月に策定した「みんなでつくとっとり市庁舎の考え方」でまとめた基本的な考え方（5つの方針）や市庁舎に求められる機能を具現化するものとして計画します。

みんなでつくとっとり市庁舎を実現するために、設計の基礎となる基本設計段階でワークショップを3回開催し、さまざまな立場や考えを持った市民の意見を反映させています。

01 基本設計のコンセプト

1. 防災機能の強化 総合防災拠点として安全性・信頼性の高い庁舎を実現します！

- ・総合防災拠点にふさわしい安全性能を備え、災害対策本部を中心とし迅速かつ継続的に市民生活を守る庁舎
- ・災害時に避難場所や災害活動拠点となる屋外のオープンスペースの整備

2. 市民サービス機能の強化 市民サービスの向上を実現します！

- ・市民を出迎えるような3つの総合窓口と、すべての世代が使いやすい待合ロビー
- ・誰もが安心して快適に利用できるユニバーサルデザイン（※1）の考え方を導入

3. 庁舎機能の適切な配置 市民に開かれた、効率的、効果的な市政運営を進めます！

- ・利用者が多い窓口部門と市民サービス機能を低層階に集約した利便性の高いフロア配置
- ・開放的で視認性のよいオープンフロアを基本としたフレキシビリティの高い事務空間
- ・機能が十分発揮される諸室を配置し、展望ロビーを備えた議会フロア

4. 活力と魅力あるまちづくりの推進 市民交流、まちづくりに寄与します！

- ・市民が気軽に訪れることができるオープンスペース『4つのにわ』（2ページ参照）の整備
- ・交流を育み、まちづくり拠点となるよう市民に開かれたスペースを低層階に配置

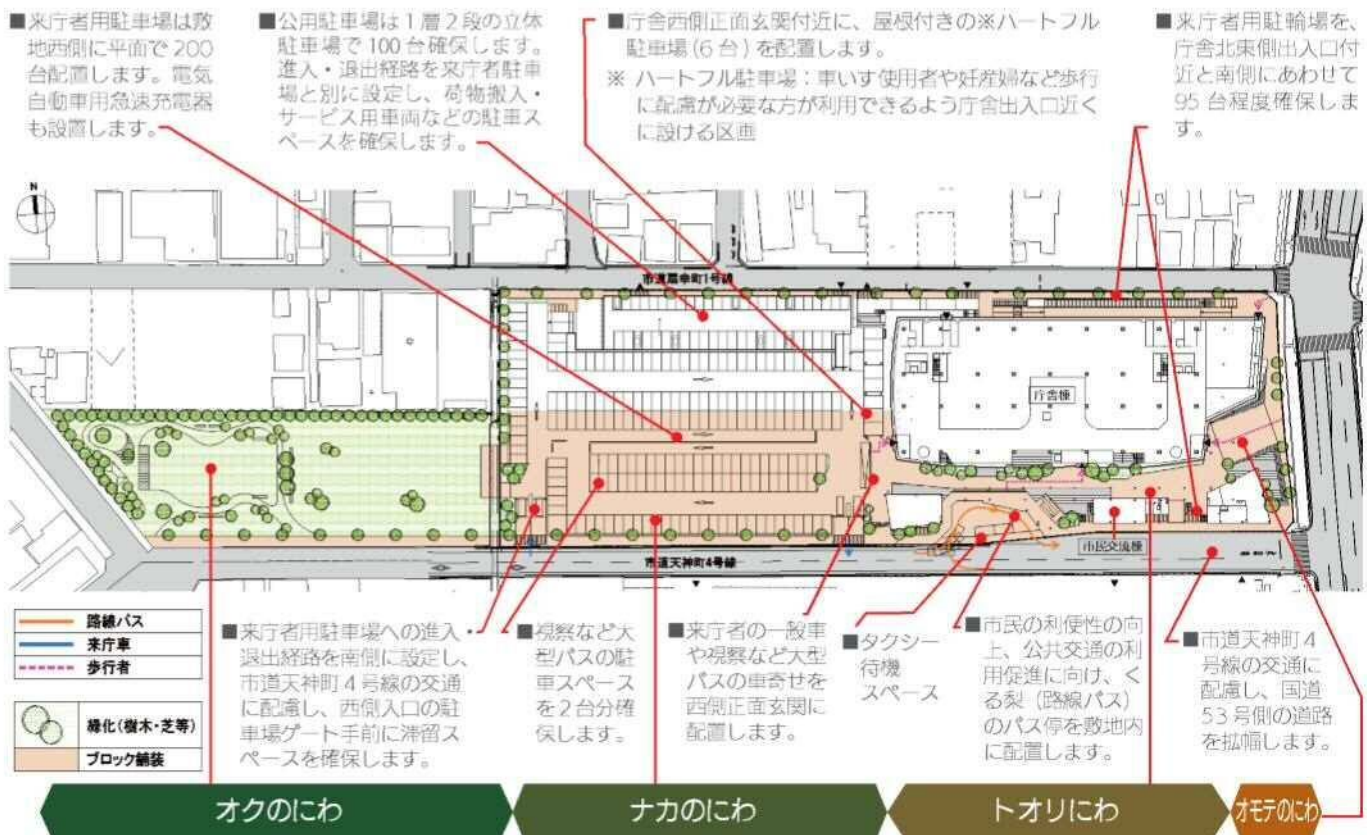
5. 現在および将来にわたる費用の抑制 長期的な視点に立ち、費用を抑制します！

- ・維持管理や更新性に優れた、長期的に経済効率が高い庁舎
- ・自然エネルギーを積極的に取り入れ、省エネルギー性能を発揮できる庁舎

※1 ユニバーサルデザイン：「すべての人のためのデザイン」を意味し、できるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること



02 配置計画



オクのにわ (幸町棒鼻公園)

芝生広場など緑豊かな公園とし、子どもの遊具や健康遊具を設置して多世代が集える場にします。災害時の活動拠点としても有効に活用できるようにします。

ナカのにわ

市庁舎の西側正面玄関の前庭となるナカのにわは、普段は来庁者用駐車場として、休日には様々なイベントに利用可能な場所として、また、災害時にも使用できる水道や電源を整備し、平常時・災害時にフレキシブルに活用できる場にします。

トオリのにわ

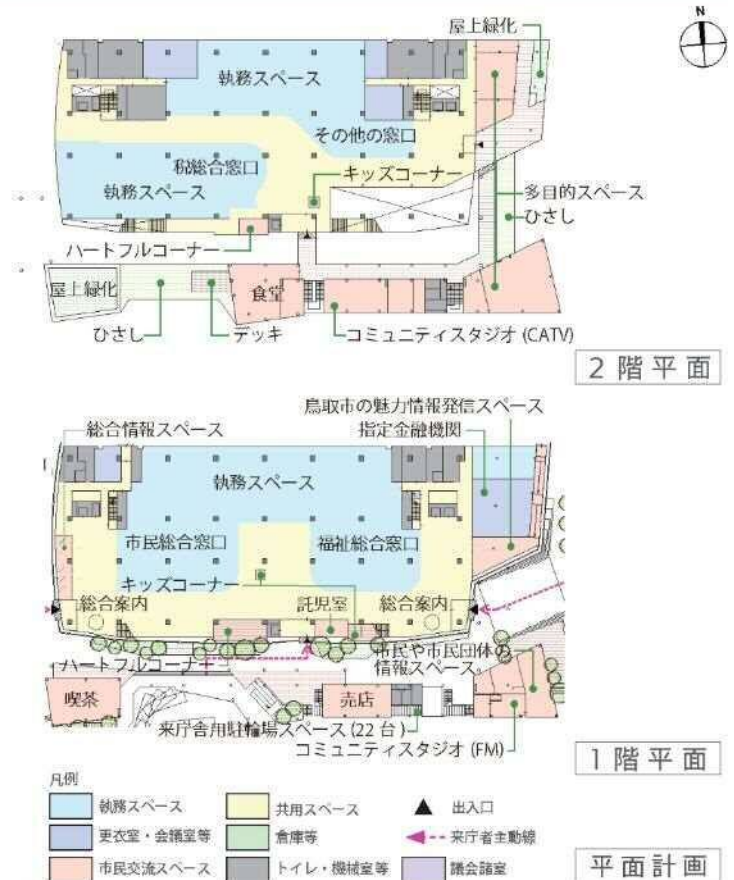
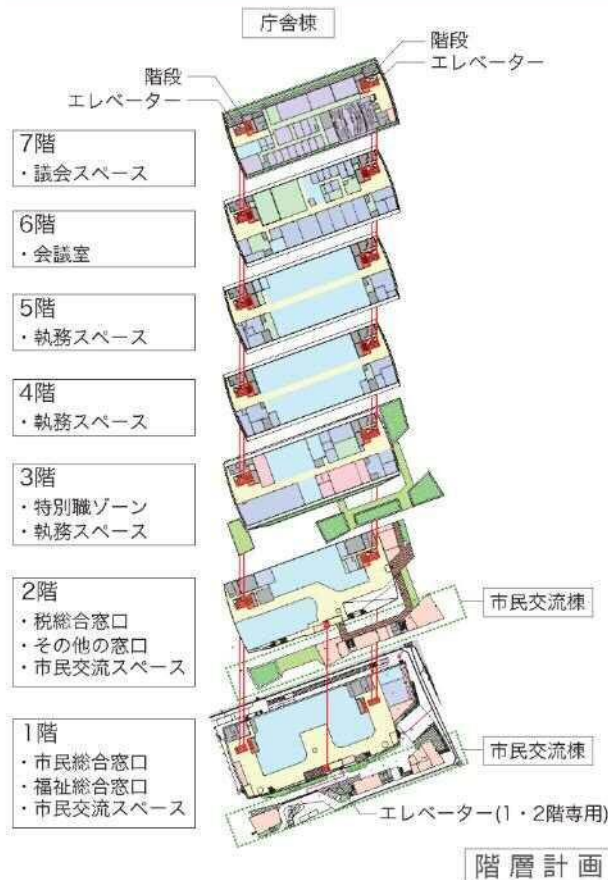
庁舎棟の1・2階窓口の待合ロビーと市民交流棟の間の屋外・半屋外のオープンスペースで、屋内施設との一体利用も可能な、緑が身近に感じられる市民の憩いの場にします。

オモテのにわ

鳥取の魅力や市民団体の活動を発信するスペースとともに、市庁舎の東側正面玄関の前庭として、街に開かれ、市民が気軽に集える場にします。

03 階層計画・平面計画

- 新本庁舎は地上7階建て（一部8階機械室）の庁舎棟、地上2階建ての市民交流棟、1層2段の立体駐車場で構成します。
- 庁舎棟1・2階に市民の利用頻度が高い窓口や情報発信スペースなどを集約し、3階以上に執務スペース、7階に議会スペースと展望ロビーを配置します。



04 防災計画

1. 敷地全体で災害活動を支援します

- ・屋外のオープンスペースを活動拠点として有効に活用
- ・駐車場は災害対策車両スペースや応急給水拠点として利用

2. 災害対策拠点を低層階に集約配置します

- ・災害対策諸室と特別職ゾーンを3階に集約配置
- ・災害対策本部会議室周辺に防災関係機関の活動スペースを配置
- ・市民交流棟は支援物資仕分けや炊出しスペースとして利用

3. 浸水被害へ対応します

- ・1階床レベルやトオリにわ、駐車場の一部を1.2mかさ上げ
- ・自家発電機室や受変電設備、熱源機械室等は最上階に設置

4. 免震構造を採用します

- ・庁舎機能の継続利用を可能にするため免震構造を採用



柱の下に設置する免震装置（支承材）地震エネルギーを吸収する装置（減震材）

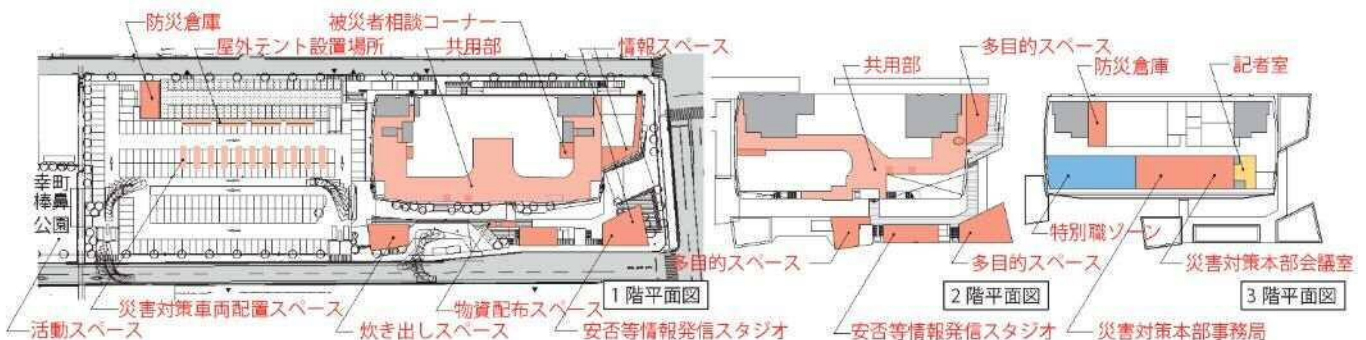


5. インフラ遮断時にも自立稼働します

- ・ライフラインのバックアップ機能の導入
(水の備蓄、通信回線の多重化、電力の二重化、非常用自家発電機設置、LPガスの備蓄など)

6. 災害時に情報管理と情報提供を行います

- ・非常用自家発電電源に接続された情報管理機器による業務継続
- ・待合ロビーや情報発信スペースを情報提供スペースとして利用



05 環境計画

1. 自然エネルギーを有効に活用します

- ・地中熱を利用した空調システムの構築
- ・ソーラーチムニーとエコポイド（※2）による自然換気
- ・昼夜の温度差を利用したナイトパージ（※3）など

2. 省エネルギー化を推進します

- ・様々なセンサー（感知）技術による省エネルギー制御
- ・ライトシェルフ（※4）による自然採光など照明エネルギーの削減
- ・床吹出し空調システムによる快適性と省エネルギーの両立

3. エネルギー損失の低減と建物への負荷低減を図ります

- ・断熱効果等に優れる外装材や高遮熱複層ガラスの採用
- ・ひさしを兼ねたバルコニーや東西面の縦ルーバーによる日射抑制

4. 建物の長寿命化を図ります

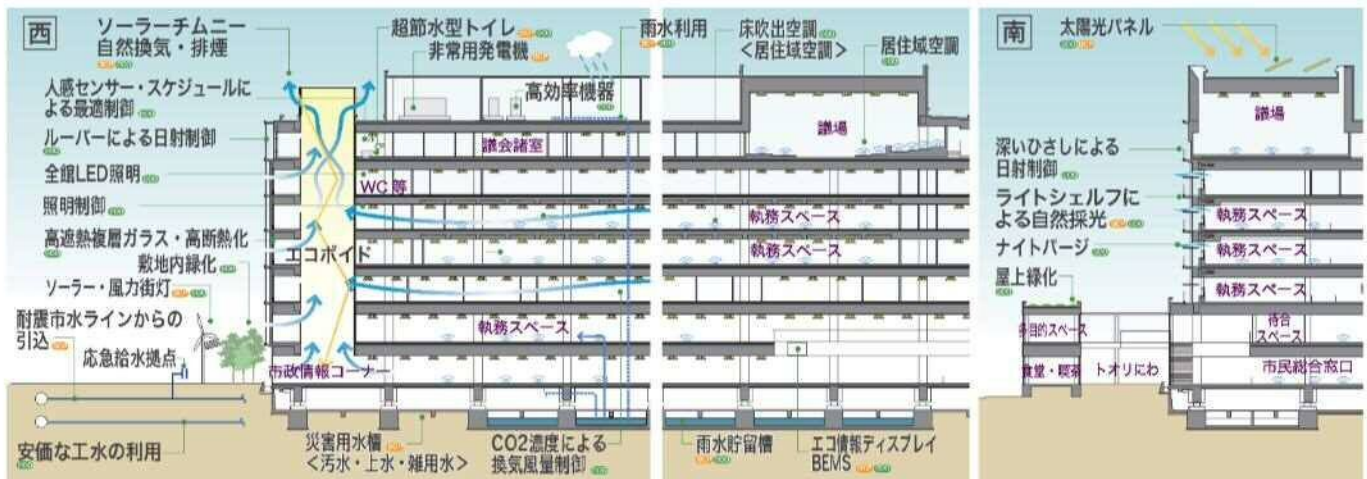
- ・耐久性が高く堅牢な構造体の採用
- ・将来の変化に対応できる構造体、設備や内装の導入

5. リサイクル材・地元産木材を利用します

- ・建設時、廃棄時に環境負荷の少ない材料の採用
- ・地元産木材を内装材や備品などに積極的に利用

6. ライフサイクルコストを縮減し環境評価の高い庁舎とします

- ・費用対効果の高い省エネ技術でライフサイクルコスト削減



※2 ソーラーチムニー＋エコポイド：太陽熱によって暖められた吹き抜け内の空気の上昇による気流を自然換気の動力源として利用

※3 ナイトパージ：冷房期間中に昼夜の温度差を利用して、夜間に外気を取り入れ構内を冷却し、翌朝の冷房立ち上がり用消費エネルギーを抑制

※4 ライトシェルフ：直射日光を遮る役割と反射した自然光を部屋の奥まで導入する反射板としての役割をもつひさし

06 計画概要

建設地	鳥取県鳥取市幸町 71 番地
敷地面積	13,867.01㎡ ※道路拡張による減予定あり
構造種別	庁舎棟：鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造（梁の一部）、市民交流棟：鉄骨造
建築面積	※約 5,860 ㎡（庁舎棟：約 4,830 ㎡、市民交流棟：約 1,030 ㎡）
延べ面積	※約 21,560 ㎡（庁舎棟：約 19,820 ㎡、市民交流棟：約 1,740 ㎡）
階数	庁舎棟：地上 7 階（一部 8 階機械室）、市民交流棟：地上 2 階
高さ	※約 36 m
駐車台数	約 300 台（平面駐車場 来庁者用 約 200 台、公用 約 100 台）

※ 現時点での概数であり、事業費も含め実施設計時に確定します。

【今後のスケジュール（予定）】

平成 31 年秋の開庁をめざし、取り組みを進めます。

	H28	H29	H30	H31
基本設計	8 月末完了			
実施設計		7 月末完了		
工事				7 月末完了

新本庁舎建設基本設計概要（案）の CG イメージ動画を下記のサイトからご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/2AtkivfSL2g>



読み取り用 QR コード

【問い合わせ先】

鳥取市総務部庁舎整備局

鳥取市尚徳町 116 市役所本庁舎 3 階

電話 0857-20-3012

ファクシミリ 0857-20-3029

電子メール choshaseibi@city.tottori.lg.jp

新本庁舎基本設計概要（案）に関する 市民政策コメントを募集しています！

資料公開 本庁舎、駅南庁舎、各総合支所の窓口、各地区公民館、本市公式ホームページなどでご覧いただくことができます。

公開期間 8月7日（日）まで
提出方法 様式は問いません。住所、氏名、電話番号を明記のうえ、郵送、ファクシミリ、電子メール、持参のいずれかで問合せ先まで。※土日祝の持参は本庁舎 1 階警備員室まで

提出期限 8月7日（日）17 時まで

資料2

山手工業団地、布袋工業団地の整備状況等について

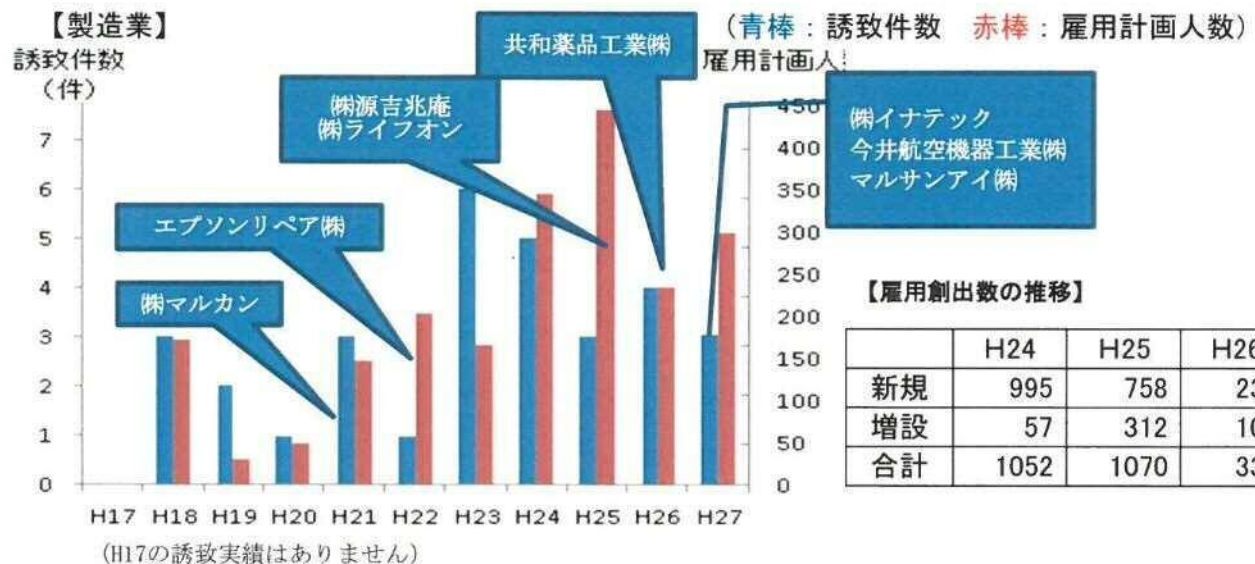
企業立地・支援課

1. 現在の雇用情勢

【有効求人倍率】

	全 国	鳥 取 県	鳥 取	正社員倍率	米 子	倉 吉
H28.5月	1.36	1.36	1.07	0.60	1.42	1.10
H27.5月	1.18	1.14	0.94	0.53	1.10	1.00

2. 鳥取市の企業誘致実績（平成17年～現在）と雇用創出の推移



3. 直近の企業誘致の動向

件数、規模とも増加傾向。昨年は中京圏から大型優良企業の3社が進出した。

企業名	本社	雇用計画	面積	業種
(株) イナテック	愛知県	100人	約1.8ha	自動車部品製造
今井航空機器工業(株)	岐阜県	100人	約1.2ha	航空機部品研究開発製造
マルサンアイ(株)	愛知県	100人	約3ha	豆乳、飲料その他食品製造

【企業誘致の要因】

- ①自然災害リスクの少なさ（東日本大震災以降のリスク分散の動き）
- ②大都市圏への時間距離の短縮（鳥取自動車道の全線開通効果）
- ③大都市圏での人材確保が困難
- ④充実した優遇助成制度

4. 鳥取南地域の企業誘致の状況

【鳥取南IC布袋工業団地】

 株式会社 ササヤマ ホームページ 求人情報  	企業名 株式会社ササヤマ 立地場所 鳥取市河原町布袋 調印日 平成 27 年 7 月 9 日 内 容 難加工材向けプレス金型の開発・製造 操業開始 平成 28 年 9 月 予定 雇用計画 約 37 名	
	 完成イメージ図	

 自然の恵みから、おいしさと健康を。 marusan ホームページ 求人情報  	企業名 マルサンアイ株式会社 立地場所 鳥取市河原町西円通寺 調印日 平成 27 年 5 月 12 日 内 容 豆乳・飲料等の開発・製造 操業開始 平成 29 年 7 月 予定 雇用計画 約 100 名（現在は求人はありません）	
	 完成イメージ図	

【河原 IC 山手工業団地】

 INATEC ホームページ 求人情報  	企業名 株式会社イナテック 立地場所 鳥取市河原町山手 調印日 平成 27 年 4 月 27 日 内 容 自動車部品の切削加工 操業開始 平成 28 年 6 月（6.17 竣工式） 雇用計画 約 100 名（6.1 現在 44 名採用）	
	 完成イメージ図	

※QRコードから各ホームページにアクセスする場合は別途パケット通信料が発生します。

「布袋工業団地」整備状況 平成28年7月

●整備計画

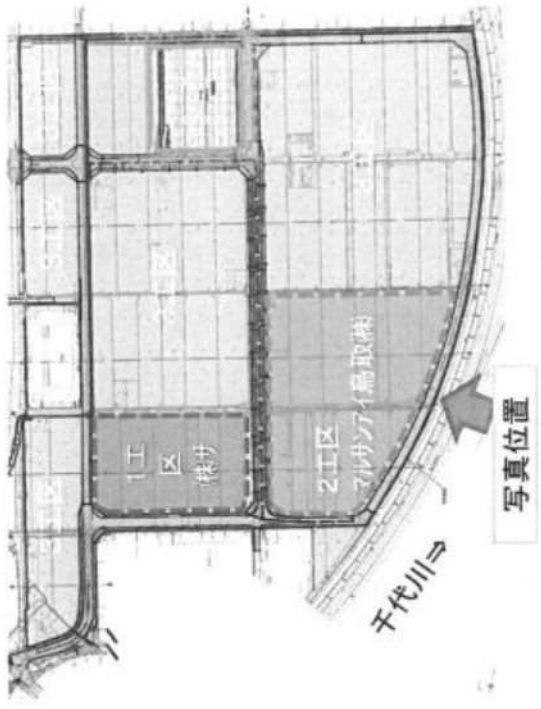
	H27年度	H28年度	H29年度～
1工区	――		
2工区	――	――	
3工区		――	
インフラ整備※	――	――	――

※インフラ整備⇒道路、水道、下水など

企業進出状況に応じて整備

凡 例	
敷地造成	
道路	
調整池	
公園	

《布袋工業団地分譲状況》⇒ 約28.6%
分譲面積約14haの内約4haを分譲
・株ササヤマ分譲面積 約1.3ha(1工区)
・マルザンアイ鳥取株分譲面積 約2.7ha(2工区)



●車側からの全景



「山手工業団地」整備状況 平成28年7月

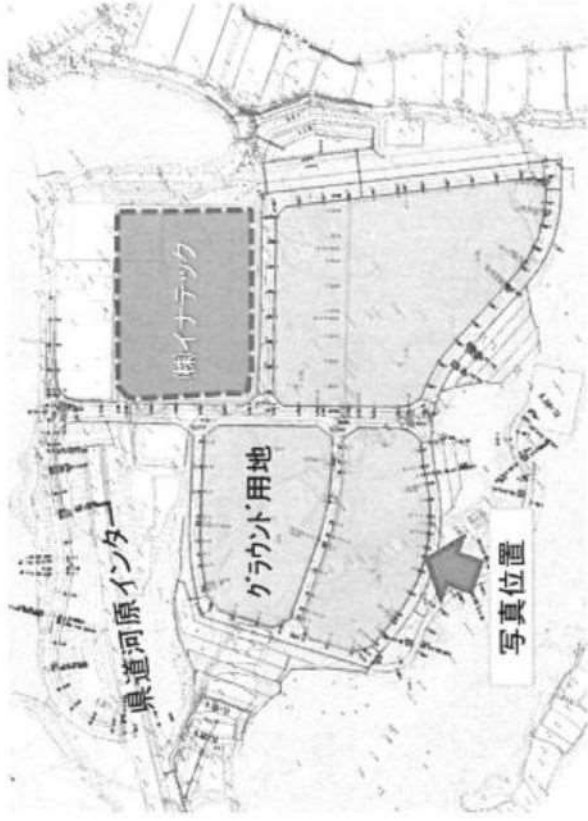
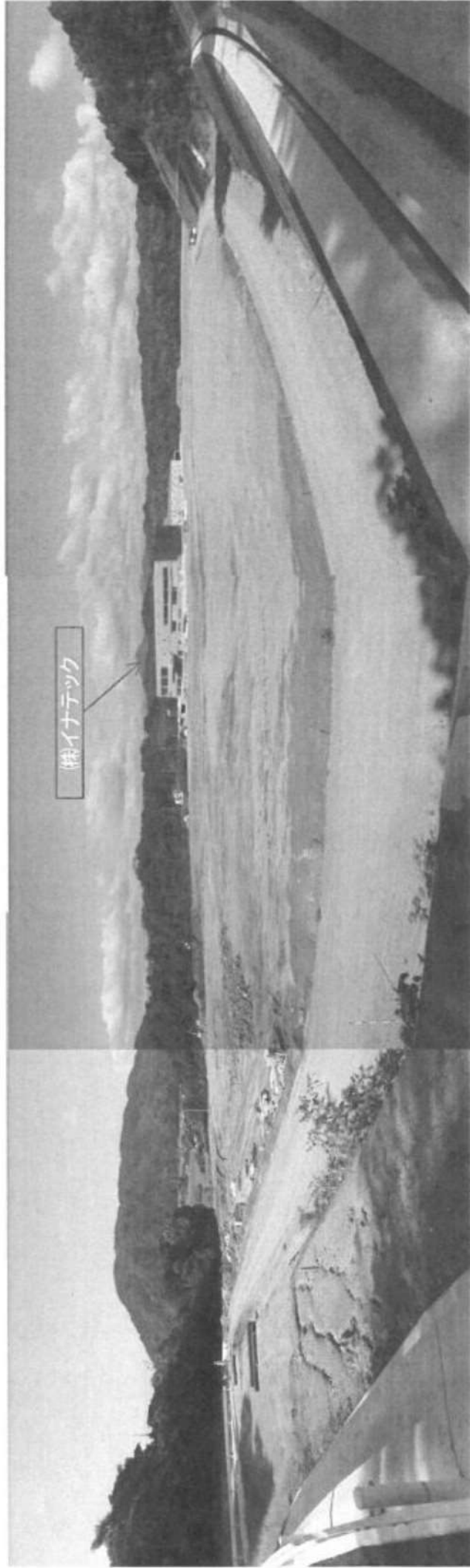
● 整備計画

	H26～27年度	H28年度	H29年度
敷地造成	――	――	
インフラ整備※	――	――	――

※インフラ整備⇒道路、水道、下水など

《山手工業団地分譲状況》⇒ 約32.2%
分譲面積約5.9haの内約1.9haを分譲
・㈱イナテック分譲面積 約1.9ha

● 南側からの全景



用瀬町エコツーリズム連絡会の活動について

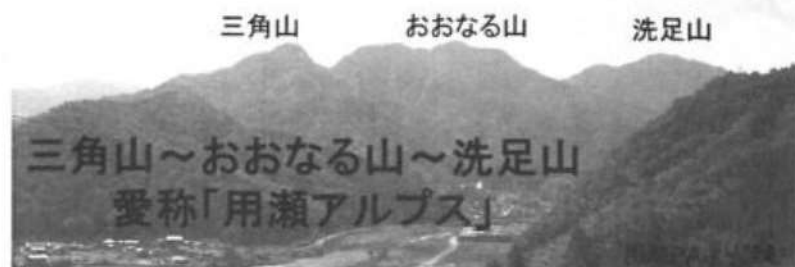
～流しびなの里をめぐるエコツーリズム～

用瀬町エコツーリズム連絡会

1

流しびなの里をめぐるエコツーリズムとは

- ・ 現在、地域ぐるみで自然環境や歴史、文化などの地域固有の魅力を観光客に伝えることで、その価値や大切さを理解し、保全に繋げていくことにより地域の活性化を図るという「エコツーリズム」の取り組みが全国的に進んでいます。
- ・ 流しびなの里をめぐるエコツーリズムとは、用瀬アルプス（三角山から洗足山に至る山系）周辺を本地域の特徴的な観光資源と位置付け、優れた自然環境の保全を基本に観光客の誘客を図るとともに、上方往来で栄えた用瀬宿や室町時代から継承されている用瀬のひな送りなどの貴重な文化・歴史資産の価値を理解し、未来へと継承する取り組みを推進する中で、地域の一層の観光振興と活性化を図ろうとするもの。



2

女人堂・三角山神社



女人堂



三角山神社本殿

【三角山】

- ◆別名 頭巾山
- ◆三角山神社奥宮本殿(市文化財)、女人堂(戦前まで女人禁制の山)
- ◆山岳信仰の山、天狗伝説などあり
- ◆山頂に景石・天狗石・重石・富士石・万灯石の巨石あり
- ◆7月23日「お山さん」の例祭行事
- 地元団体による維持管理作業の実施

3

景石城跡



【景石城跡】

- ◆別名磯部城(磯部氏の居城)
- ◆豊臣秀吉鳥取攻めの折攻略される
- ◆築城約650年前 廃城1615年
- 地元団体による維持管理作業の実施

4

ミツバツツジの名所



【一の谷公園・愛宕山】

- ◆ミツバツツジの名所
- ◆開花時期 4月中旬
- ◆ボンボリ飾りを地元団体が実施
- 地元団体による維持管理作業の実施



5

赤波川溪谷おう穴群



【おう穴群】

- ◆川の流れて動く小石などに削られ、大小様々な窪みを形成
- 地元団体による維持管理作業の実施

6

洗足山 一等三角点



【一等三角点】

- ◆標高 736.3m
- ◆霊石山、久松山、東仙、氷ノ山、三国山、籠山等
因幡の山や日本海まで眺望できる。
- 地元団体による維持管理作業の実施



7

洗足山 県自然環境保全地域



【洗足山県自然環境保全地域】

- ◆標高500m～700m
- ◆ヒメコマツ(五葉松)の自生地、シャクナゲの群生地
- ◆指定面積 23.0ha

8

用瀬町エコツーリズム連絡会

- 目的 「流しびなの里をめぐるエコツーリズム」の推進
用瀬の地理的特性や自然環境、歴史的文化資産などを活用した
エコツーリズム事業による地域活性化を推進していくことを目的とする。
- 構成会員
用瀬アルプス会、洗足山遊歩隊、もちがせ上方往来散歩径、おう穴愛護会、
愛宕会、一の会、景和会、用瀬運動公園、地域おこし協力隊
- 設立 平成26年12月10日

9

活動内容

- 登山道の維持整備、管理とパトロール活動
- エコツアーの実施
- 先進地視察およびガイド技術講座の開催
- エコツーリズムのガイドマップ作製とPR活動
- 行政（鳥取市、鳥取県）との協働による地域活性化



10

登山道の維持整備、管理とパトロール活動



看板の設置作業



登山道の整備作業



11

エコツアーの実施



【第1回 用瀬山系トレイル交流大会】

- ◆10月18日(日) 3コースで実施
- ◆参加者 アルプス縦走61名、
三角山登山55名、
おう穴散策22名

(縦走はキャンセル待ちが出るほど人気)

- ◆登山経験豊かな60歳以上の方が大多数

【第2回 用瀬山系トレイル交流大会】

- ◆4月24日(日) 2コースで実施
- ◆参加者 アルプス縦走66名、
三角山登山59名
- ◆初心者から上級者まで、幅広い参加者



12

先進地視察およびガイド技術講座の開催



H28.2.28 山歩き講座
50名参加



H27.11.20 先進地視察
13名參加



PR活動

[illegible]

● 出版说明：本书为《中国书画函授大学肇庆分校建校二十周年纪念册》。

... (text continues) ...



登山月報に紹介されました。



“おらが山、PRの重



尾根伝い歩く楽しみ
「用難アルブス」

[illegible]

地元新聞紙にもたびたび
取り上げてもらっています。

国土地理院による登山道調査

H27.9.26 ~ 11.27
(9日に分けて実施)

「用瀬アルプス」地図上に

登山道表示で
誘客に追い風



用型アルプスの登山道の一部
(鳥取市提供)

際には本道の「関係」
との連携を必要とし、
この連携を図る。山道
調査の資料は、熊倉町
O・Y・T O計の山友
が運営する「用能アルプ
ス」と呼ばれる無取資
用能町の山系を選ん
だ。調査費は作成する
正式な地図には山道
が否定される。これは
つて、用能者は、愛
好家に広く認知され
る「熊倉と山地表調

現態を志向し、
熊倉町内「山道」型調
査団体の組織として
解散後、用能町エ
リートへ進級会、
岳登会など関係者
の策定で調査対象
となる。調査対象
トとなすため、
以降調査を行う。
調査費、インテ
ットの国土地理院
に提出。山道の「

位置を示す。登山者はスマートフォンやタブレット端末などを使って現在地、標高などの情報を確認ができるようになる。

市は、洗心山、三峰山などで提供される用願アルプス、エコツリズムを推進するエリアとして整備している。これら地域に住民が尾根伝いに登山道を整備し、独自にルート施設を作成していったが、道筋地図には表示

「用瀬アルプス」登山道
公式地図掲載へ調査

この日は、山梨南エ
リアの動物園ならぬ「森
山の山梨」を訪ね、森
山の動物園を訪ねた。



調査のため登山道を歩く奥取湖登山口
は秋の佳境。22日、奥取湖登山口

山口や分岐点の様子をカメラで撮影したほか、地味なメカ系要素をふまえて登山道の現状をレポートした。

登山道沿いの山村紹介。標高1100は「用能アルプス」は諸君に1100と表示されている。登山道で走れば結構的と断言して「登山」の動作を促す。

15

エコツーリズムのガイドマップ



瀬山登山ガイドマップ

用瀬地域版
・1万部作成
・鳥取大丸や道の駅で配布



広域版
・ホームページ上で公開



16

流しびなの里をめぐるエコツーリズム推進事業の概要

【実施期間】

平成28年度～平成30年度（整備事業）

【実施体制】

地域住民や地元の団体で組織された「用瀬町エコツーリズム連絡会」と鳥取市が協働で進めていく

【事業概要】

- ①本格的な登山客の受入れに向け、登山者の安全安心を確保するための登山道等と利便施設の整備
- ②エコツーリズムとしてのメニューづくりや情報発信
- ③登山者を受け入れる体制づくり、人材育成

17

【平成28年度の計画】

- ・ 山頂表示 2ヶ所
- ・ 案内看板 2ヶ所
- ・ スポット看板 4ヶ所
- ・ ベンチ設置 5ヶ所
- ・ 避難小屋 1棟

【平成29年度の計画】

- ・ 道標 10ヶ所
- ・ 案内看板 2ヶ所
- ・ 登山届BOX 2ヶ所
- ・ 避難小屋 1棟

【平成30年度の計画】

- ・ 道標 10ヶ所
- ・ 案内看板 2ヶ所
- ・ 登山届BOX 2ヶ所



18

目 標

- 3年後の年間登山者（交流人口）5,000人を目指す。
- 智頭町や佐治・河原地域との連携により広域的なエコツーリズムの舞台として、地域とともに育てていく。
- 交流人口増加による地域への経済波及効果を促進する。

19

今後の課題

①次世代の活動の担い手となる人材確保

地域住民に愛されている山や自然を、住民が自らの手で守ってきたが、会員の年齢が高くなってきており、登山道などの整備作業に参加できる人数が減少している。数年後もこの活動を継続するために、単純に登山が好きなだけではなく、ボランティア精神を持った若手を取り込んでいく仕掛けが必要。

②広域的なエコツーリズム活動への発展

平成26年12月に地元の団体を中心に設立し、用瀬アルプスを活動の舞台としてきたが、より多くの自然環境を観光資源につなげていくための取り組みも必要。

用瀬町だけでなく、河原町・佐治町を含めた鳥取市南部地域でもエコツーリズム活動を展開することや、智頭町との連携によって、より一層の地域活性化を図る。

20